

OKoTaC 通信

オコタッパ

2015 年 4 月 20 日発行

NO.22



P 2 NPO活動報告(1)

外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会『デリート教材ってなあに?』

P 3 NPO活動報告(2)

ピアにほんご『高校生活オリエンテーション』

多文化な子ども@大阪 のニュース

『第一回識字・日本語学習研究集会』に参加して

P 4 大阪府立高校の特別枠校紹介③

『門真なみはや高等学校』(門真市)

P 5 Air Mail メキシコ便り②

『チワワ』

P 6 みんなの日本語、みんなで NIHONGO! ②

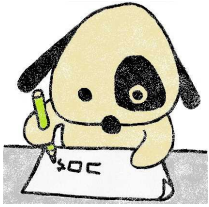
『日本語の読解問題に思うこと／「目線の“動き”の違い」』

P 7 OKoTaC 掲示板 / ころちゃんお役立ち情報(8)

外国人保護者向け冊子『子どもをバイリンガルに育てる!』作成

P 8 イベント情報・総会案内





おおさかこども多文化センター 活動報告(1)

外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会 『デリート教材ってなあに?』開催

2月14日(土)、ヒューライツ大阪セミナー室にて、学習会「デリート教材ってなあに?」を開催しました。

講師は、大阪市立西九条小学校の「帰国した子どもの教育センター校」在職中に、国語科の学習支援のために“デリート教材”を考案された松田多枝子さんと、現在同センター校の教諭である渡邊勇さん。デリート教材の趣旨やその作り方について、実例を交えて詳しく紹介されました。地域で子どもの支援に携わっているサポーターや大学の研究者、また高校の先生など、日ごろそれぞれの場所で児童生徒と関わっている25名の参加者は、みんな熱心に聞き入っていました。また後半は小グループに分かれて、実際にデリート教材を作ってみるワークショップも行われました。参加者のお一人でオコタック会員の増山美幸さんが、感想を寄せてくださいました――



講師の渡邊先生(左)、松田先生

デリート教材の作成に挑戦してみませんか?という案内を見て、ぜひやってみたいと思い参加しました。講師は「センター校」で実際に外国にルーツを持つ子どもたちに日本語指導をされてきたお二人ということで、年少者に対する日本語教育ではまだまだ難である私にとって、経験豊富な先生方から直接ご指導いただけるまたとないチャンスでした。

講座は案内の通り、まさしく「体験型」のワークショップでした。先生方から説明を伺った後、参加者全員がチームに分かれ、早速デリート教材作りに取りかかります。与えられた課題は、小学校の国語科の教科書にある『ごんぎつね』の物語を「デリート」すること。

ここで話は少々飛びますが、デリート教材の「デリート」とは何のことでしょうか。これは delete、つまり「削除する」の意味の英単語です。言い換えると、読解教材に使われる物語を、それを読む子どもの日本語力に合わせ、必要な部分だけを残して他を消して行くのです。消すのは子どもにとって難解な形容詞や、状況描写などの付随的な情報となっている部分です。本来は原文にあるものを読んで学習する目的の教材であるので、原文を大きく変えることはできません。不要な部分はざっくりと削る一方で、原文にある難解な語彙や表現は子どもにも解るような言葉に置き換えることも必要となります。



残すべき部分、削る部分…

熱心に話し合う参加者たち

では話を元に戻します。三人一組でのチームワークでしたので、三人がそれぞれ意見を出しながら削る部分を決め、表現などを変える部分はどうかを話し合い、さらに物語として成り立つことを確かめるため、前後のつながりを読み進めながら作業します。そんなことをしていると、あっという間に時間が経ってしまいました。

かなりのボリュームでばっさり削ってしまう部分もあり、デリート後の物語と元の物語を比べると、半分か3分の1ぐらいになってしまった感じがします。それでも全体を通して物語を読むと、流れとテーマは変わっていないので、理解し易くなっていることが分かります。授業についていく日本語力のない子

どもたちが、他の生徒と一緒に授業を受けるためには、このような形でまずは必要なことを理解させることの重要性を学んだ貴重な体験となりました。

(増山 美幸)



おおさか子ども多文化センター 活動報告(2) ピアにほんご「高校生活オリエンテーション」



今年も恒例の「高校生活オリエンテーション」が3月28日(土)、府立今宮工科高校で開催されました。これは4月から府立高校に入学する外国にルーツを持つ生徒たちを対象に、日本の高校生活を送る上で知っておきたい情報を提供するため、府教委とピアにほんごが毎年行っている催しです。今年は新入生とその保護者、教員、通訳など、総勢93名の参加がありました。昨年に比べ参加校、参加者数ともほぼ、倍増しました。参加された府立咲洲高校の細川左右さんに感想を寄せていただきました。

「高校生活オリエンテーション」に参加して

大阪府立咲洲高等学校 首席 細川 左右

本校卒業生がこの度「先輩からの話」ということで、新入生に話をするということになり、その引率として参加させていただきました。会場の多目的室は、見る見るうちにいっぱいになり、様々な国の言葉が飛び交っていました。新入生や保護者の方は、これから始まる高校生活への不安からか、緊張した面持ちで通訳の声に耳を傾けていました。新しい学校生活への説明が進むにつれ、徐々に緊張もほぐれ、「先輩からの話」では、拍手が沸き起こったり、母語で質問があったりと、和やかな雰囲気になっていました。

本校卒業生は、フィリピンから2年生の時に転校してきました。当初は、こんなに日本語が上達するとは思っていませんでした。ここに至ったのは、本人の大変な努力はもちろんのことですが、多くのすばらしいサポートがあったからこそだと思っています。彼女は、母親への恩返しをしたいという思いから、就職の道を選んだということを語っていました。

また、他の卒業生たちも、自宅学習や友だちとのコミュニケーションでの苦労話をしていました。最後に、それぞれの母語で熱いメッセージを伝え、堂々と語る卒業生に、うなずく新入生たち。そんな新入生の姿は、高校生活への期待に胸を膨らませて輝いていました。とてもすばらしい会であったと感じ入りました。



多文化な子ども@大阪 のニュース・・・・・・・・・・・・・・・・

「第一回識字・日本語学習研究集会」

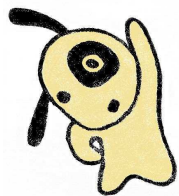
2月28日(土)、大阪教育大学天王寺校で、上記集会が開催されました。主催は、キャンパス内に「識字・日本語教室」の開設を計画している「同大学教職教育研究センター」で、識字・日本語連絡会と、おおさか識字・日本語センターとの共催で開かれました。

午前中の全体会では、『識字・日本語学習の課題はなにか』と題したパネルディスカッションがありました。文化庁国語課の山下隆史さん、全国夜間中学校研究会事務局の黒川優子さん、識字・日本語連絡会の古川正志さんらをパネリストに、外国人家族をはじめ、言葉や文字に不自由する人たちの実態や状況などの把握が不十分であることの現状と、識字日本語活動のさらなる継承、発展について論議されました。

午後には、この種の集会では取り上げられることの少なかった「子どもたちへの支援」の分科会がありました。府内の子どもの支援に関わっておられる方の参加も多く、活発な協議、交流がなされ、子どもを含む外国ルーツのある家族の実態把握と、家族・学校・地域のさらなるつながりの必要性について話し合われました。

(K.A)





大阪府立高校の特別枠校紹介③

～ 門真なみはや高等学校 ～

門真なみはや高校は普通科総合選択制の学校です。これは、選択科目の多い普通科ということで、2年生になると10のエリアに分かれて、自分の興味、関心にあった勉強をします。ですから、世界の文化や外国語に興味を持つ生徒やスポーツの好きな生徒、音楽や芸術に関心のある生徒、福祉に興味がある生徒など、特徴を持った生徒が多く入学してきます。スタートは2001年4月、大阪府の高校再編の中で生まれた新しいタイプの高校です（ただ、残念なことに、普通科総合選択制は数年後には廃止されます）。

そして、2001年のスタートと同時に導入されたのが、「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」です。以来、15年間にわたって外国から来た子どもたちを受け入れてきました。もともと、特徴ある生徒が集まる学校ですので、外国にルーツがあるということもひとつの特徴です。彼らはうまくほかの生徒になじんでいるように思われます。



楽しく日本語を学ぶ授業風景―

輪になって日本語でスピーチ

外国にルーツを持つ生徒（以下、渡日生）の在籍数は現在約50名。本校では、「渡日生の教育に関わる指針」を定めて、教職員の共通理解の下に、この生徒たちの教育に関わるようにしています。この指針の柱は「自分が育った国・地域に誇りと自信を持つ」ということです。ルーツをしっかりと見つめ、大切にしながら、この日本で生きていく力をつけさせたいと考えています。そのため、日本語授業と母語（継承語）授業を開設しています。日本語授業はその生徒の日本語力に応じて複数のレベルの授業を設けています。

また母語の維持はその生徒のアイデンティティに深く関わることです。私たちは、日本語は覚えただけでも母語を失ったということにならないよう、母語授業を設けています。これまでに開設した言語は、中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語です。こうした母語の授業を設けてよかったことは、幼少期や小学校時代に来日し、どちらかというとも母語から疎遠になり、親が母語で語りかけるのに対して日本語で受け答えしてみたり、母語を理解していても決して使わなかったりというような生徒も、高校に入学してから、母語授業を受け、あるいは仲間と出会うことによって、当然のように自分の言葉を話し出すことです。また、一般入試で日本名を使って入学した生徒も、この授業があることを知り、2年生から母語授業を受ける生徒が毎年出現するのもよかったことです。自分のルーツを明らかにしても、それが当たり前と受け入れられる雰囲気があるので、安心して母語授業を受講し、ルーツを明らかにしていきます。

また、渡日生の集まるクラブが「多文化交流部」です。ここには日本人生徒も入部し、文化祭ほか、さまざまな学校行事で自分たちの文化（歌や踊り、展示など）を発表しています。

そして本校で学び、大学を卒業し、社会に出て行く渡日生も出てきました。そんな中、府立高校の教員となった卒業生もいます。また、この渡日生と日常的に接し、多文化共生を身をもって体験してきた日本人生徒も同じように社会に出て活躍することでしょう。特別枠を設けて15年、この特別枠入試と外国にルーツを持つ生徒と日本人生徒が同じ高校で学ぶということの成果は、これからの日本社会で発揮されていくことだろうと思います。



文化祭の多文化交流部の展示場で、来客に中国茶を実演中

〒571-0016 門真市島頭4-9-1 TEL 072-881-2331

（大阪府立門真なみはや高等学校 教諭 大倉 安央）



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り②「チワワ」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

日本でも人気のチワワ犬の原産地、チワワに行ってきました。チワワはメキシコシティーから北に飛行機で2時間、バスだと21時間かかるメキシコ最大の州チワワ州の州都です。今回の旅の目的はこのチワワと太平洋側のロスモチスを結ぶ全長 653 キロのチワワ太平洋鉄道に乗ること、この沿線にあるグランドキャニオンの4倍の大きさを誇るといわれている海拔2400メートルの銅溪谷を見て、このあたり一帯に住む山岳民族のタラウマラに会うことでした。

朝7時、チワワから太平洋鉄道に乗り、クリールに着いたのが昼の12時半、この列車、とにかく遅いのです。横の道路を走る車にどんどん追い抜かれていきます。おまけに料金が安い。クリールはチワワから四つ目の駅ですが、料金は2等で389 ペソ(約3,890 円)これで終点のロスモチスまで行くと約1万円近くかかります。緑豊かな溪谷をぬうようにゆっくりと走る電車はとても風情があり、時間とお金に余裕があればこんなに贅沢な旅はないのですが、どちらかでも欠けると乗りたくても乗れない、ちょっとつらい旅になります。だってバスだとクリールまでかかる時間は1時間短く、値段は約半分なのでから……。それでも車中は観光客で満員、ゆったりとした大きな座席で車窓から見える緑をみんなぼんやりと眺めながら旅を楽しんでいました。



クリールはこのあたりの観光の基点となるところで、鉄道駅を中心にホテルやレストラン、みやげ物店がたち並び、結構にぎわいをみせています。そんな中、なんでも屋のショーウィンドーのカセットデッキを熱心に覗き込んでいる母娘がいました。タラウマラの民族衣装の、ひだの多い色鮮やかなスカートをはいた娘の名はチャベラ 20 歳、お母さんはレホヒア 43 歳でした。やはりほかのインディヘナの女性と同じくレホヒアはとても43 歳とは思えず、60 歳くらいに見えました。子どもは8人、ここからバスで3 時間のところのバランカ(断崖)に住み、毎日、民芸品を売りにくるといっ

ていました。このあたりは、バランカが 11 箇所あり、朝日と夕日に照らされ銅色に輝くということで、最も有名な銅溪谷は 1300 メートルの高さです。

タラウマラはララ(タラウマラ語で足の意味)ムリ(走るの意味)とも言い、70 パーセントがララムリ語(タラウマラ語)を話します。人口は 12 万 1835 人、主に銅溪谷を中心に暮らし、その語源から走る民族といわれています。断崖の頂上あたりと、溪谷の谷間あたりを移動しながら、だいたい 150 人くらいの村落を形成して暮らしています。頂上あたりはりんごや桃の保存には適していますが、冬にはマイナス 10 度にもなります。一方、溪谷はパパイヤ、マンゴーなどが採れますが、夏には 45 度から 50 度の猛暑です。このようにあまりに厳しい自然環境のためタラウマラは半定住生活を余儀なくされてきたのです。

チャベラに「カセットデッキが欲しいの?」と聞くと、かすかにうなずきました。値段は 358 ペソ(約 3580 円)です。もちろん彼女の家には電気はありません。でも音楽が大好きだそうで、私が「一生懸命働けば、いつか必ず買えるよ」というと、うれしそうに小さくほほえみました。母親のレホヒアに夫の職業を聞くと、「お酒ばかり飲んで少しも働かない」と困った表情をしました。私が「どうして文句をいわないの?」という、あきらめたような表情で首を横に振りました。全員が全員ではないでしょうが、タラウマラの男は酒豪が多く、その酒代を稼ぐために働くのは女性だといわれています。これはタラウマラのクルトゥーラ(文化)だから仕方がないという人もいますが、8人もの子どもを産み、育てて、毎日3時間もおんぼろバスに揺られて、作った民芸品を売りにクリールまで来るレホヒアが本当に気の毒になり、その夫を一杯蹴っ飛ばしてやりたくくなりました。



みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ②

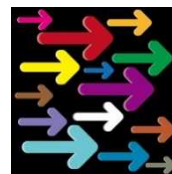
外国にルーツをもつ子どもたちと関わる上で、避けて通ることのできないテーマ「にほんご」。
日本語指導、日本語支援、日本語学習支援者養成、様々な「にほんご」現場の実践から、感じたこと・
考えること・気づきや学びなどを書き綴り、お伝えするコーナーです。

安田 乙世（おおさかこども多文化センター 副理事長・日本語教師）

【エピソード2】 日本語の読解問題に思うこと／「目線の“動き”の違い」

読者のみなさんは、文章を読む時、縦書きが好きですか？それとも、横書きの方が好きですか？

最近は特に、横書きを目にすることが多いかもしれませんが、縦書き・横書きにこだわらない
日本語の表記は街中に溢れています。つまり、その表記方法は縦書きでも横書きでも、どちらで
もいいわけです。

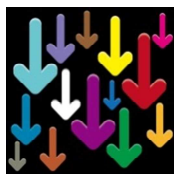


学校現場で言うと、教科書は縦書きと横書きの2種類がありますし、作文はというと、主には
縦書きでしょうか。日本人母語話者にとっては、当たり前であり、何でもない「縦書き⇄横書きのシフト」を、表記
方法に縦書きが存在しない国から来た日本語学習者は、どう感じているのでしょうか？今回のエピソードはそ
れについてのお話です。

Bくんは来日してほぼ2年、府立高校の1年生です。日本での大学進学を目指しているため、大学入試を視
野に入れ、日本語能力を充実させる必要がありました。

中上級者向けの読解教材として扱った日本語テキストは、「著名な小説やエッセイ、評論を通し、日本文化や
事情、上質な日本語を学ぶ」をセールスポイントにした、日本語教材では珍しい「縦書き」のものでした。Bくん
は、持ち前の頑張りや理解力で教材を読みこなしていき、指導をしていた筆者も、問題ないようだと感じていた
ある日、Bくんは言いました。

「先生～、疲れたので、ちょっと休んでもいいですか？いつも目を左から右に動かして読むことが多いので
すが、この日本語の問題は上から下に目を動かして読むので、なかなか慣れなくて…すぐく疲れるんです。国語
の授業で教科書を読む時も、同じように疲れます。横に読んでいくより、縦に読んでいく方が、エネルギーを使
うし、読むのに時間がかかります。目が疲れました…」と。



あらためて考えてみると、成人の日本語教育においては、ほとんどのテキストは横書きです。
しかし、学校に身を置く日本語指導が必要な児童生徒たちにとって、少なくとも国語教材や国語
の試験問題は縦書きなのです。

成人の日本語教育に関わってきた筆者は、日本語教材の内容の難易度だけを考えがちで、目線をどう動か
すかによって変わってくる肉体的負担感については、考えてもみませんでした。Bくんの
言葉で、あえて「目線を上から下に動かして日本語を読んでいく肉体的(?)トレーニング」も必要なのかもしれないと気づかれ、以後、教職員の日本語指導研修などで、ひ
とつの視点として紹介するようになっています。

日本語指導の対象が変わると、その都度、新しい発見や驚きがあります。それは、
何年日本語指導をしていても変わらない「宝物」だと感じています。 (つづく)

日本語指導の対象が
変わると、その都度、
新しい発見や驚きがあ
ります。



OKoTaC 掲示板

外国にルーツを持つ子どもたちの支援や 多文化共生のための活動に関わる
ご協力のお願いや募集、オコタックからのお知らせなどを随時掲載します。

▼外国人保護者向け冊子『子どもをバイリンガルに育てる！』作成

日本で子育てをする多くの外国人保護者の方が、子どもの母語・継承語保持の悩みを抱えています。「にほんごサポート ひまわり会」では昨年、大阪大学の真嶋潤子先生をお招きして外国人保護者のための教育講演会を開催、このたびその記録集を発行しました。

外国にルーツを持つ子どもがバイリンガルに育つために重要な点（親は常に自分の母語で子どもに話す、日本語と母語を混ぜない…等）や、まわりの人ができることについても、詳しく解説されています。また実際に保護者から出された相談や、それに対する専門家からのアドバイスも掲載しています。

支援に関わる人たちだけでなく、当事者の皆さんにもぜひお届けしたく、多言語版も作成しました。
お問合せ・ご購入は下記までご連絡ください。

① 母語保持教育講演会報告書『子どものことばを伸ばすために—母語と日本語の教育について—』

真嶋教授の講演、質疑応答、言語別の話し合いの記録 日本語 B5 版 55 ページ 600 円

② 『将孩子培养成双语儿童！／子どもをバイリンガルに育てる！』

上記講演記録のダイジェスト版。中国語—日本語（ルビ付き）対訳 B5 版 18 ページ 300 円

③ 『Đề nuôi dạy con thành người song ngữ!／子どもをバイリンガルに育てる！』

講演記録のダイジェスト版。ベトナム語—日本語（ルビ付き）対訳 A4 版 18 ページ 300 円

④ 『Para que sus hijos lleguen a ser bilingües...／子どもをバイリンガルに育てる！』

講演記録のダイジェスト版。スペイン語—日本語（ルビ付き）対訳 B5 版 18 ページ 300 円

【問合せ・申込先】にほんごサポート ひまわり会 e-mail: himawarij1511@gmail.com

ころちゃんお役立ち情報（8）

～ 使ってみました！ 意外に使える google 音声翻訳 ～

インターネットを利用した自動翻訳は web 上には多種多様なサイトが存在しますが、数年前までは誤訳・珍訳になってしまい、使いものにならないという印象でした。

ところが最近の翻訳サイトはかなり正確になっており、加えて音声入力もできるということを聞き、さっそく翻訳サイトの一つ「google 翻訳」の中国語、スペイン語、タイ語を試しました。

日本語を理解しない保護者に学校から電話などで連絡する場面を想定しましたが、ほぼ、三カ国語とも意味は通る内容で翻訳していました。みなさまも一度、試されてはいかがでしょうか。



おおきに！

2014 年度オコタック（NPO 法人おおさかこども多文化センター）への ご寄付ありがとうございました！

伊東和子、井上泰雄、内藤路美、荻田由美子、桶谷仁美、久利司、斎藤裕子、澤田幸子
兎内香保留、村上薫、村上自子、安田乙世、梨木亜紀、橋本義範、オコタック事務局

その他匿名4名（敬称略）



イベント情報

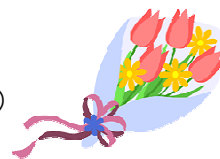
『新入生歓迎！高校生交流会』（大阪府立学校在日外国人教育研究会主催）

府立高校に入学した外国にルーツを持つ新入生を、在校生達が歓迎する恒例の催しです。

毎年多くの高校生、教員、ボランティアが参加します。

参加希望の高校生は必ず各高校の担当者を通じて府立外教(Mail: furitsugaikyo@nifty.com)

に申し込んでください。なお教員の付き添いが必要です。



【日 時】2015年5月23日(土) 午後 (詳細未定)

【場 所】大阪府立桃谷高等学校 (JR環状線桃谷駅下車、東南へ1キロ)

今年の総会も、特別講演があります！

おおさかこども多文化センターの2015年度総会を、下記のように開催いたします。

正会員は総会への参加・議決権、賛助会員は参加権があります。

今年も議案審議のみの総会ではなく、オコタック（おおさかこども多文化センター）にふさわしいお話を聞ける機会を設けました。是非、多くの会員みなさまに出席していただければと願っています。

記

日 時 : 2015年5月30日(土) 10時30分～12時00分

場 所 : ヒューライツ大阪セミナー室(下の地図参照)

おおさかこども多文化センターが入っているビルの同じフロアです

時 程 : 10時30分 総 会

11時00分 ～12時00分

特別講演「渡日生徒として、特別枠校教員として思うこと」

講 師 : 大阪府立長吉高等学校 高 雅 さん

NPO 法人 おおさかこども多文化センター (OKoTaC) 代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいけいけい))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(ワガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

